

## 令和2年度 一般廃棄物の排出状況について

### 1. 家庭系ごみの収集量(実績値)の推移

#### 年度別ごみ量の推移 (家庭系一般廃棄物)

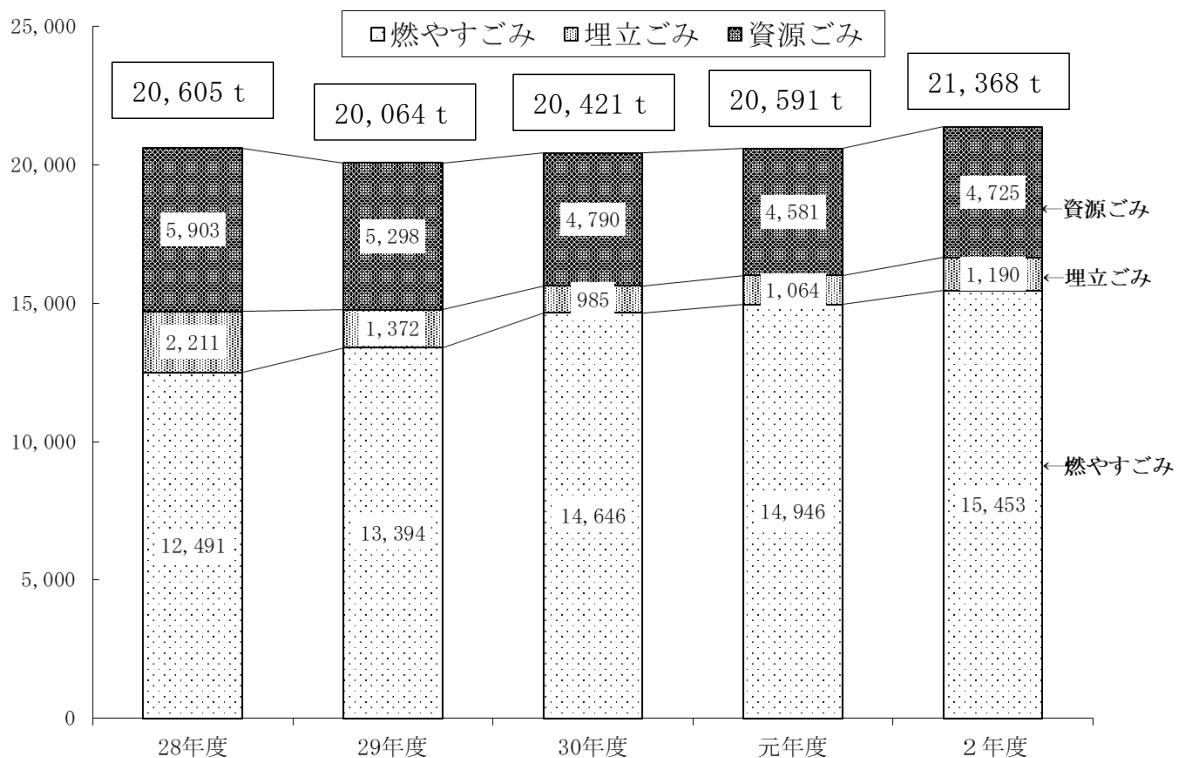
項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	対前年度 比率 %	(参考) R02/H28
人口(9月末時点住民基本台帳人口)*	人	103,624	102,744	101,819	100,791	99,701		
ごみの収集量(家庭系一般廃棄物)(C)	計画値 t/年	20,562	20,086	19,575	19,151	18,598	-	
(市が所管するごみ収集量+直接搬入量)	実績値 t/年	20,605	20,064	20,421	20,591	21,368	103.8	103.7%
処分ごみ(A)	実績値 t/年	14,702	14,766	15,631	16,010	16,643	104.0	113.2%
燃やすごみ	計画値 t/年	11,393	13,041	13,396	13,157	12,883	-	
	実績値 t/年	12,491	13,394	14,646	14,946	15,453	103.4	123.7%
埋立ごみ	計画値 t/年	1,936	1,639	1,184	1,188	1,133	-	
	実績値 t/年	2,211	1,372	985	1,064	1,190	111.8	53.8%
うち火災ごみ	実績値 t/年	9	0	0	33	142	-	
資源ごみ(B)	計画値 t/年	7,233	5,406	4,995	4,806	4,582	-	
	実績値 t/年	5,903	5,298	4,790	4,581	4,725	103.1	80.0%
紙資源	実績値 t/年	3,132	2,797	2,604	2,345	2,417	103.1	77.2%
金属資源	実績値 t/年	457	457	478	500	574	114.8	125.6%
ガラスびん	実績値 t/年	391	396	378	367	357	97.3	91.3%
ペットボトル	実績値 t/年	50	46	47	45	45	100.0	90.0%
プラ資源	実績値 t/年	1,693	1,505	1,260	1,290	1,305	101.2	77.1%
特定ごみ	実績値 t/年	32	24	23	34	24	70.6	75.0%
蛍光管	実績値 t/年	0	0	0	0	3		
生ごみ	実績値 t/年	148	73	0	0	0		
再資源化率(B/C)	計画値 %	26.6	24.2	22.1	21.8	21.3	-	
	実績値 %	28.6	26.4	23.5	22.2	22.1	-	
一人当たりのごみの収集量(家庭系一般廃棄物)	実績値 kg/人・年	198.8	195.4	200.5	204.5	214.3	104.8	107.8%
処分ごみ	実績値 kg/人・年	141.9	143.8	153.5	159.0	166.9	105.0	117.6%
燃やすごみ	実績値 kg/人・年	120.5	130.4	143.8	148.4	155.0	104.4	128.6%
埋立ごみ	実績値 kg/人・年	21.3	13.4	9.7	10.6	11.9	112.3	55.9%
資源ごみ	実績値 kg/人・年	57.0	51.6	47.0	45.5	47.4	104.2	83.2%

\*住民基本台帳人口に外国人含む。

計画値は飯田市一般廃棄物(ごみ)処理計画(平成29年度~32年度)による

※平成29年9月から稲葉クリーンセンターが稼働(プラスチック系、皮革類が燃やすごみに変更)、同時に家庭生ごみ分別収集推進事業が終了

#### 年度別ごみ量の推移



## 2 分析

令和2年度のごみの収集量(家庭系一般廃棄物)の合計は21,368トンで、前年度対比777トン、3.7%の大幅な増加となりました。「飯田市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画」(平成29年度～令和2年度)における計画値18,598トンに比べ、2,770トン上回っています。このごみ量の大幅な増加は、新型コロナウイルス感染拡大により、市民の皆さんが自宅で過ごす時間が長くなったことの影響が大きいと推測されます。

### (1) 処分ごみについて

平成29年9月、ごみ焼却施設の更新(桐林クリーンセンターから稲葉クリーンセンターへ)に伴い、ごみ分別区分を変更しました。ビニール・プラスチック・ゴム類、皮革など、従前の埋立ごみが燃やすごみに移行した結果、埋立ごみは減少(対28年度比同53.8%)し、燃やすごみは増加しています。(同123.7%)この燃やすごみと埋立ごみを合わせた処分ごみの収集量は16,643トンで、前年度対比633トン、4.0%の増加となっています。この処分ごみは例年微増微減を繰り返してきましたが、平成29年度からこの4年間は、増加傾向が続いています。

### (2) 資源ごみについて

資源ごみの収集量は4,725トンで、前年度対比144トン、3.1%増加しました。平成15年の8,733トンをピークに毎年減り続けてきましたが、初めてわずかに増加に転じました。内訳では、紙、金属、プラ資源がやや増、ほかは横ばいかやや減です。また、令和2年7月から、蛍光管のリサイクル回収を開始し、今年度から項目を追加しました。全般の傾向は、引き続き市内大型店舗での店頭回収が市民生活に浸透している一方で、市民の皆さんのリサイクル意識の緩やかな広がりが伺えます。

### (3) 再資源化率について

資源ごみの重量をごみの収集総量で除した再資源化率は22.1%と、前年度より0.1ポイント減少しています。処分ごみの増加が大きく数値に影響しています。

### (4) 一人当たりのごみの収集量について

令和元年度と比較して9.8kg、率にして4.8%増加しています。燃やすごみ、埋立ごみ、資源ごみの3種とも増加しています。

## 3 課題と今後の取組

令和2年に行った燃やすごみの組成調査では、資源化可能な「紙類」、「プラ資源」の混入が約9%みられました。令和元年度と総量では大きく変化していませんが、「紙類」の混入率は減少しています。引き続き資源化可能な「紙類」、「プラ資源」の分別排出の促進が課題です。

「ごみリサイクルカレンダー」や「分別ガイドブック」といった既存の広報資材や、広報いいだの特集記事、映像媒体による資源化推進の啓発、新たに開始した「ごみ分別アプリ」の活用、加えて各地区環境衛生担当委員会と協働して各地区におけるごみ分別学習会を開催するなど、多面的な啓発活動を粘り強く進めてまいります。

また、燃やすごみの中で比重の大きな「生ごみ」を減量するため、生ごみ処理機購入費補助事業に取り組み、機器の一層の普及を図ることによって、燃やすごみ減量につなげていきます。

一方、表中埋立ごみ量として値を示していませんが、燃やすごみの焼却処理の結果生じる「焼却灰」約2,000トン/年はこれまで最終処分場で全量埋立ててきました。令和2年度から通年で内2/3を外へ搬出し、再資源化処理を始めました。結果焼却灰も含めた埋立総量は、従前の2/3に圧縮しました。今後もこの事業の継続/拡大に取り組んでいきます。